

岐 蘇 林 友

(一)



大正元年十二月二十三日印刷
大正元年十二月二十五日發行
編纂兼發行人
長野縣西筑摩郡福嶋町四〇四番地
安井正夫
長野縣松本市本町百八拾四番地
印刷者 兎澤忠雄
全縣全 市全 番地
印刷所 交文社
長野縣西筑摩郡福嶋町二八九番地
發行所 蘆澤書店

○岐蘇林友
目次
講演、送歳の辭、安藤校長
學術、竹林栽培に就て、全上
拔萃、山林政策、法學士翠川潔
阿里山の森林
文苑、旅の二日、小品二題、
通信、山林學校便り、寄宿舎便り
福島通信、佛部便り
朝鮮より、林恒君より
雜報、校友會演說梗概、
林界雜俎
附錄、卒業生名簿、

明治天皇御製

歲暮近

新玉のとしのをはりも近づきぬ

あつしむしといひ暮すまに

論 說

送歳の辭

安藤

明治四十五年として迎へ大正元年として送る本年の太故劇變に就ては回顧誰か無量の感慨に打たれざるものあらんや嗚呼吾人が日本國民として涕淚滂沱至上至大の精神的興奮を餘儀なくせられたるの歳は今將に逝かんとす恐れながら

明治天皇の尊靈高く天上に神去り給ひ今上天皇陛下御聖文武の資を以て皇祚を踐ませ給ひ先帝の御遺業を繼紹し給ふ而して假令大御代は改まりたりと雖も日本帝國の精華は益發揚し國運愈々隆盛に赴かんとす誰か政變の一小事に因て日本國の前途を悲觀せんや

抑も天地の變する固より之あり人世も亦必ず來べき自然の變化を免るゝ能はざるなり而も吾人は其變化たるや退化にあらずして進化たらん事を欲するものなり而して之を欲する必ず其道を以てせざる可からず即ち人事の最善を盡し彈力ある活動を爲し努力奮闘自強息まざるにあり

回顧すれば我木曾山林學校が呱呱の聲を福嶋町に擧げたるは十二年の昔にあり而して今や新開村の新校舎に移り此忘る可からざる記念の初歳を迎へ且つ送るに際會す苟くも本校に關係ある者誰か本校過去十二年の生命を回想し併せて新校舎將來の生命を考慮せざるものあらんや唯其追想と考慮とを濃厚ならしめ之に伴ふ實現の正大ならん事を希望して止まざるなり

明治聖代の計畫に依るもの大正の御代に繼續して益々其美果を收めん事を期するは我が林業界の特に必要なる條件なり吾人夫れ忠誠の道を誤らず益々國家の隆運に貢獻せんが爲高潔なる山靈の氣に浴しつゝ修養怠らず不撓不屈國恩の萬一に報じ奉るべきなり歲月は水の如く飛鳥川の移り易きが世

學 術

竹林栽培に就て

安藤 校長

本筆記は去る十一月十一日愛知縣第三回山林大會視察旅行の途上安藤校長の講演に係るものにして新三河新聞より轉載せり
余は名古屋市の出身であつて今は長野縣に奉職してゐるものである、由來長野縣と愛知縣とは有も密接なる關係を有してゐる、又木曾材は名古屋に於ける商人の手に依つて捌れるのである、其他總ての点に於て深い關係を有してゐる、愛知縣にて良校長の譽れ高き山崎農林學校長は時々長野縣に來りて有益なる講話を試られ且つ昨日の大會で講話せられた稻垣博士及柴崎氏も長野

縣の出身であり余も長野縣に奉職してゐる。茲に招待を添ふして二稿の講話をなすのは即ち兩縣に於ける智識の交換である、斯くの如き事は今後大に奨励したいものである。余は竹林に就て少くも話をしてみたいと思ふ。三年前で愛知へ来た途中、中央線高藏寺附近から竹林が大恐慌を起してゐる事を汽車の中から眺めた余は其の甚だしいの一驚を喫したのである。昨年長野縣へ赴任した當時は之れほど甚だしくはなかつたのが僅かの間に斯く迄の大恐慌を來したは實に不思議に堪へなかつた。余は縣當局に就いて之を訊いた、すると端なくも余の意見と一致したのであつた。此の恐慌の理由を説明するに先づ愛知縣に於ける竹材の需用状態を調査する必要がある。最近の調査に依ると先づ名古屋市中心として一ヶ年に二十五萬二千圓からの竹材が消費せられつゝある。此れは何れも扇子、割箸等の他の細工物で百四十五萬九千圓からの産額である。即ち百九萬圓からの収入は多くは細民の生活する費用となつてゐる。莫大なるものである。名古屋に於ける重要物産の一に數へられるのも無理はない。然るに此の原料は縣下の竹林で産出するものが僅に十分の一に過ぎない。十分の九は岐阜九州乃至四國或は和歌山等の他縣から輸入せらるゝのである。つて愛知縣下の竹林の荒廢に伴ふて年々輸入額を増加して行く。全時に其の價格の如きも次第に騰貴して居る。かの京都地方の竹の相場に就て見ると明治十一年から同十八年に至る統計に依ると約四倍以上に達してゐる。故に加工者は一方ならず困難を感じて遂には竹材加工品の産額まで減少する。こゝには原料たる竹材の價格を安くしなければならぬ價格を安くする。には産出額の増加を計らなければならぬ。余の小供の頃には到處に竹林を見たものであつて余の屋敷内にも竹林があつたものである。殊に東西加茂郡の如きは縣下に於ける産地であつたが現今では殆んど昔日の面影を有して居らない。即ち農村が都市の膨脹人口の増加に伴ふて漸次減少するのである。然るに今回の竹材の作用でなく天災である。去る九月廿三日に於ける颶風の結果である。而もそれが愛知縣下に於て最も被害の甚だしいのは大に理由がある。七月から八月にかけて吹く風は竹林に對して非常なる被害を與へる筈は未だ胞弱であつて容易に風の爲めに倒される。故に京都附近では此の時機に吹く風を竹倒と稱してゐる。九月に入りては筈は既に生長して風に堪へ得るだけの力を有してゐる。普通竹は風に對して強いものである。此の強い竹が三四萬圓からの被害を蒙つたのは七十年昔にない大暴風雨でも西南の風であつて太平洋上を吹いて多量の水分を含んで來たからである。竹のみならず稲作の如きも水分より受ける被害は甚大なるものである。故に太平洋に面して居る國は被害が殊に甚だしかつた。愛知縣の如きもさうである。それ風が強く雨も多量に降つたから。殊更に甚だしい假令水分を含んでゐる風が吹いて雨も多量に降れば水分も雨の爲めに溶蕩せられて随つて害も甚だしいのである。故に雨量が少くあつたのも大なる原因となつてゐる。今となつては被害を蒙つた竹林の救済策を講ずるの目下の急務である。その救済策として先づ第一着に葉の枯れた竹を伐採せなければならぬ。伐採すれば一時竹林は荒れやうであるが二三年後は回復する事が出来る。

山林政策

法學士 翠川 潔

い、稻作などの邪魔にならないやうに植ゆる、而かも竹は普通樹木の如く一定の年限を經なければ収益の上らないと云ふものでない、植ゑてから三年の後には漸次伐採することが出来る、長野縣では小學校生徒に竹を植ゑしめ之れを財源として學校の費用にあてしむる方法を取つて居る處もある、且つ神社なども竹を植ゑて祭典の費用などにするものもよい、現に京都の男山八幡宮の如き竹藪十數町歩ばかりあつて年々八百圓から一千圓の収益があつて之れを社務所の費用として居る、隨つて祭典の如き立派に行うことが出来る、京都附近は竹の産出地として有名である、孟宗竹一反歩に付き五十圓位の収益がある、余は先年京都桃山に全國の竹の種類約五十種を集めて植ゑ付けて置いた、畏くも明治天皇は竹に對して非常なる趣味を持たせられたやうであつた、それ故に竹に就いての御製、隨分少なくはない、竹林を栽培して紀念林とするものもよからう且つ竹林をして保安林として、外の樹木と異なり年々伐採することも出来る、寧ろ伐採しなければいかならぬから萬事に就いて都合がよい農林學校に於て率先して模範を示し一般農村に此種の事業を奨励して貰いたいものである、殊に愛知縣立農林學校に於ては全國から參觀に來るのであるから同様に其の範を示すのは天下の竹林を奨励する事となる、即ち農村振興策としても地方に依りては竹林の經營が最も効力があることを一言すると共に縣當局者並に一般栽培者に向つて充分なる講究を切望するものである(完)

拔萃

山林の状態で一國の國勢を測知するを得ると云ふが實に吾人を欺かないのである。見給へば是る支那合併前の韓國亞非利加諸地方を、亞非利加も嘗ては世界文明の發源地であり當時は森林の見事な可きものありし事である。虞翁が四十年前豫言せしが如く昔時の聲名に比し哀れなるオットマントルコは今や世帯道具を携帶してボスポラス海峡を越へ亞細亞に窮迫して其新月國の山岳は如何皆秃山でないか反之世界三大帝國の一たる獨逸は如何旅人茫漠たる露國の平原を過ぎて一度歩を此領に入るもや山野皆森林を以て充さる。

是れカイゼルの森林を愛惜するの特に甚だしき結果にして又森林は國威を示す一端であるからカイゼルは見榮坊である。從て負けず嫌である之が動いて國運の衰々乎たる所以であらう。普佛戰爭のありしは近々數十年前の事だ當時の佛國と今日の獨逸帝國の國運とを比したら隔世の感があるだらう。其國威を示す森林状態は實に前述の如しだ。佛國も普佛戰爭後其財政整理の方法として官林を拂ひ下げたが最近大に殖林に注意して居る。埃國も森林は却々立派だ。云ふ話である之れ等の實例は吾人に示すに森林は國威を示すなる言の眞實を以て予讀して我國森林の現状は如何であるか彼の植林後拂下げをなせし制度より今の製材組織を取るに至りて山林収入も増加する有様なるが先進國に比すれば其収益の些少なるに一驚を喫する獨逸に於ては一町歩の収益が一年に一圓五十錢以上に及ぶも我に於ては僅に三

四錢であるとの事だ固より我國に於ても非より國土經營と云ひて森林の保護に隨分政治家が努力するのであるが先進國に比すると却々及び難きを知り得るなり吾人は我國の地勢位置より歐洲諸國の如き材價を有し得ず從て収益も少しとするも一町歩二三錢の収益では心細い。大に此邊から國庫の収入を増加し財政難の我國に於ける時局を救濟する事が出来はしないか森林の經營は性質上個人經營よりも公共團體の經營に適當する理由を有す故に國家又は地方自治團體の収入の財源とするに適當のものである。從て其収益は公收入と變じつゝある。木會は山林を有し又殖林に適す故に其自治體は収入の財源として森林を有する事の有利なるは勿論現に木會に於ては多く所有して居るのである。現代財政に於て問題となるは租稅賦課の點である。誠に國家財政膨脹の原則が現に行はれ次第に支出を要し政府は財源に窮して居る、加之中央政府と地方自治體とは互に事務の分任上中央政府が當然なすべき事を自治體に委して相互事務錯綜し從ひて地方自治體も次第に經費を要す。事となり其財源に窮し一個の財源にて中央政府の負擔にも任じ自治體にも賦課せられ人民は重税に苦しむの事となり如何なる租稅が中央政府の租稅に適し如何なる税源が地方稅として可なるやは今や財政上の一問題ならんとする時に山林の經營を以て收入を計り得る地方自治體は幸福である。而して木會は實に此天の恵を與へられて居る處である。況んや帝室も深く木會人士の爲に考ふる處ありて御下賜金もある次第である。木會の人々は深く其意を体し健全なる自治體の發達は動いて立憲政體の根柢を堅めざる可らず幸に自然は木會を恵む大なり而して吾人

は自然を利用して之を支配せざる可らず。多幸なる木會、有望なる木會よ、幸に健全なる發達を遂げて余の囑望に背く勿れ。(信濃民報より轉載)

阿里山の森林

由來本邦の三大森林として木會の扁柏林、青森の羅漢柏林、秋田の杉林を挙げたるが今や帝國領土の擴大に依つて此等三大森林以上の大森林を臺灣に得たのである其蓄積の洪大なるに於て林相の美良なるに於て又樹種の多數なるに於て阿里山は眞に天下に冠絶するものである此阿里山は臺灣の中央部に位し日本第一の高峰新高山の西方に當りて二脈をなして居る、其山容を彩る美樹良材は總尺約二千萬本の巨額を算し其内には熱帶温帯寒帯の各種の木材を有し其樹種及分布を記せば先づ二千八百尺より四千尺の間

耐久力の強き故に建築器具其他一切の用材として最も重用され殊に近來内地は此種の大木材殆ど缺乏の状態なれば其價格は驚くばかり騰貴して居る又阿里山には材幹長大にして無節の良材豊富である故に將來には造船材としてチークの代用となり輸入材を防欺し得べく其他車輻材、洋風建築材、橋梁材として新利用方面の需要は益々擴大せらるべし

文苑

紅檜。之は臺灣特産の樹種で阿里山林中其直徑と成長の最大なるものである、平均直徑は扁柏に比して大差ないが其大なるものは直徑二十尺以上に及ぶものも珍らしくない樹高も亦百三十尺に達する、材質は扁柏より稍軟である併し割裂伸縮する事が極めて少い特質を有する又老成なるものには木理頗る美麗で裝飾材として甚だ適して居る

旅の二日 北山長江 九月十日起き出れば雨だ、それに宵に大分風があつたので母は「どうするの」と不安らしい、僕も暫しは感うたが「何かに出見よ」と父の言葉に遂に出発と決した

十時恰度國東丸は出帆した、S銀行にT氏を訪ねたが不在小使が電話で家の方より今しがた出たといふ返事を得た間もなく来た然し縣に關しての話で僕の嘴をなぞ入りうもない、父より先に辭して歸ることも宿へ僕の荷物が見えた蓋祖父の心配に預つたもの——零時汽船度津丸に乗る一週間前までは毎日三百人の過剰客があつたと云ふが今日は唯一人もない然も會社の競争は依然繼續されてゐる試に三十二哩の航海が往復五錢で出来るとは誰れも夢にも思ふまい

初冬の頃

鬼蘇の人の

宛然池の様な灣を出ると驚いた何時の間にか浪が打寄せてくる船は動揺する刻一刻其度は激しくなる果ては傾斜の極点に迄達して来たまだ一時間立つたか立たぬに同室の婦人は早參つてしまふ意外にも船長と見える人が來て慰めてゐるまだ二時間半とはあゝ遂に僕も堪へられなくなつた、ドットと僕に音！海水は遠慮なく上甲板を洗つて行く遙か向ふを我と反對に走る船の大きなものに引變へてこれは又小さい木つ葉船何さま小山のような大波に襲はれては到底叶ふものがない、昨日ならぬ前は人の身の上であつたが「構ひません此處へ」ともこらへられるものでない」と親切に介抱されては地獄に佛僅三時間も六時間の苦痛で漸と褐色の海に入り次で水戸を過ぎて信濃川を遡る頃はもう浪と云ふ浪はない「酔ひましたね〇〇の方でゐるらしやるの」と婦人は始めて言葉かけたもう新瀉である師範のN君中學のT君が雨を侵して出迎へて感謝して残念乍ら(明日の都合上)直ぐに車をステイションに飛ばせて上野行の五時に

通信

山林學校便り

乗車する東京行の學生と御大葬參列者とが眼立つて見えた、フト言葉が掛けられた人は鳴神と云ふ農學校校長は奈良にあつて我校長をよく知ると云ふ奇といはば言へるであらう尙同氏は縣立農林學校參觀のため加茂にて下車されたが別れに望むて寒れたる僕のため懇々と健康に關して注意ありしは大にサンクスする所である

嚴霜凜烈の候諸兄益々御健健御精勵の御事と存候新校舎は谷合の事とし日脚短く此頃は午後二時頃に至れば太陽既に山角に隠れ御嶽風駒ヶ岳風交々肌を犯して一層に有之候乍併百二十の健兒何れもおめず法ます通學致居候夫に本年よりは新校長の訓諭によりて一切襟巻を用ふる事を廢止致候様の次第健兒の意氣御推察可被下候

何處迄もくも 灰色な氣分に包まれた重い諒闇の秋は老けてうすら淋し心をも、風に初冬は寂しい情緒を含んで流れて來た、スカイラインのはつきりした氣の澄み秋は去つて水の音は地に凍り虫の音は叢に死しうす赤い日が弱く照る所々に哀愁の色漂ふて世は或偉大なる力に壓せられたじつと静かにすまなければならぬ冬となるのだ枯木を縫ふて來る悲痛な風の音ぢりり、と堪へ難い悲哀を持つた神經に喰ひ入つて來る。ア、冬はかくて刻々と擴がって行く

彼は世の敗殘者だ彼は此れ程浮世の荒波は強いとは思はなかつた落ち込だ灰色の腫脹筋のついた頬枯れた髪青春時代の血溢れた顔肉躍つた腕希望の輝を持つた瞳いつも活氣を含んだ青春時代の面影は見る影一つだにない破れた帽に破れた靴冬枯れの寂しい朝パッと霜柱を踏んで行く尖つた後姿霜の碎ける音は悲哀を帯びていつ迄もく響いて來る

〇十一月廿五日には本縣技師井上龜五郎氏

來福郡衙樓上に於て産業組合に就ての講演有之三年生全部は午後より校長に引率せられ聴講致候

○其翌日井上技師は校長の懇請によりて來校し生徒一同の爲め産業組合の性質組織等に就て講演され終に整理整頓清潔等の美德に就て特に訓戒せられ候は謝感肝銘の至り候

○十一月三十日には大坂大日本理學研究會主事磯部儀重氏來校されしに就き最初の時間を割いて數學に關する講話を聴き申候全氏は數學に實用的と學理的との二方面ある事を云ひ緻密の考慮の必要なるを説きクラネメートル及縮圖器械の原理を説明し更にゼブラン氏製の滑尺器を説明せるが中々興味有之候ひ

○本月二日は午後より一同福島小學校に開催の木曾畜産講演會傍聴の爲出席勝島獸醫學博士外數氏の畜産談を聴き申候一寸毛色の異りたる講演にて解らぬ所も多少は有之候へ共木曾馬改良談など興味不淺候ひ

○次に申上候事は今度校長の發議に基き校内に新に參考室を設け在學生職員を始め卒業生其他有志のもの寄附に俟ちて各所の蒐集し校内の一室に之を陳列し以て觀覽に供へ知見を廣むるの一端とし且つは明年落成式の好記念とも致し度是に就ては先般校長より生徒一般に希望せられ候次第なるが卒業生各位も何卒奮て此舉に御賛成相成度御在任地に於ける産物、標本、何にてもおれ御寄贈を得ば幸甚の至りに候右の舉に賛成して早速寄贈を辱うしたるは左の二君に候茲に深く感謝致候

一、足尾銅山に於け鐵索運搬實況寫真拾二葉(但しキヤビネット形白金製)

寄贈者 第二回卒業生川岸滋次郎君
全上 第七回卒業生原田久保作君

○本年も漸く押し詰り學期試験も目前に迫り候事として一層の多忙を感じ申候候今年は是にて擲筆明春更に筆硯を新にして御報可申上候草々

寄宿舎通信

初霜白く落葉しきりに風に誘はれ後山の木の間の明るささへ冷かに菊の香時に匂ひ來り候へども何處となく哀愁を惹きし霜月も半げすぎ秋實習も終り候へば月の十五日の夜西舎樓上にの慰勞會を催し候席上著音機の奏曲有之候曲中薩摩琵琶歌乃木大将に到りては「六千萬の國民に……我魂を刺すが如く誰しも強く感じ申し流石に満場水を打つたる如く静かなる裡に偉大なる將軍の面影を偲び申候越えて十八日昨夜の黒川小學校の失火にて校長よりの訓示も有之火の用心いよ肝要也と戒嚴令を布かれ候

二十二日午後よりの細雨を犯して發火演習にて大原方面に鐵脚を伸ばし候歸舎九時綿の如く疲れて夢路を辿り申候

二十五日頃より縣下一二の新聞に中等學校整理とやらの記事相見え風聞どりゝにて舎生の眼も異様に輝き圖書室の繁昌近頃に稀なりと觀測され候

近く駒ヶ岳の雪あるを望み乾反り葉のガサガサと鳴る音に哀しく荒る冬は目前に迫り兔や角して十一月を過古帳の中に葬り師走の月を迎へ申候

日の一日八時ころよりはチラ／＼と落花に紛ふ雪の訪問を受け凡う二寸も積り申候窓

越しに見たる福嶋の町も山も川も襤褸隠れ美しき所のみ見候これにて福嶋も化粧部屋に入りし者と認められ候へども午後雨にて折角の化粧も削げ元の空阿彌依然たる福嶋と相成候但し此蔭口は極秘密にて候室内の爐火は赤きを増し候試験を前に控へたる舎生の顔の粟だちて見ゆるも穴勝ちに季節の寒さのみにはあらじと存候

時計の針は誘はれて刻一刻と難關と新しき年に近づきつゝ有之候、本學期の受験には例時の如く暗記し込みたる頭を其儘そつくり飛石傳ひに教室に運び込み譯には参り申さず二十分の路程運搬中に抜け落つることやと今より取越し苦勞致し居り候

洗面場にて凍みつきたる盥を引起す音と光る氷柱これにて舎内の寒さ御推察下され候候蜜柑を火に燻べての焼けたる汁より出づる匂も舎の何處よりか薫り來り候

子年も今月きりにて盡くる爲にや天井裏の鼠隨分暴れ申候本年は是にて筆止め申候(翠村生)

ちう／＼となげき悲む聲聞けば
鼠の地獄猫の極樂

福嶋町より一筆啓上仕候

何處を見候ても灰色な雲に包まれ候諒閣の秋は淋しく老け行き候て紅葉に名を得候小丸山も城山も冬枯れの尖つた淋し面影と化し候て福嶋の天地にも冬の聲は訪れ申候去る十一月の十五日には初雪有之本月一日には朝より陰鬱に候ひしが果して間もなく粉雪粉々として満地を彩り福嶋の小さい天地は總て白銀の世界と化し申し候之と共に寒さは順に加り候て風は得たりがしこしと

遠慮會釋もなく威を逞し候て炬燵に許り付く有様に御座候

十月二十五日には西筑摩郡役所主催の産業組合講演會有之縣よりは井上技師出演致され候又本二日には畜産講演會小學校に開催せられ帝大教授 勝嶋博士 佐藤農商務技師丹下馬政官外三四名士の講演有之候ひき初冬の町には例の名物の小鳥が店頭に姿を隠し候と代つて雉山鳥の尾長々しく懸り居るを見受け申候之れ寂寞を破つて静かな空に響く銃聲の手柄にや候はん

寒さは一風毎に加はり静かに立ち登る湯屋の煙にも冬枯れの町の寂しさは表れ自然の威喝は實に恐ろしき戦さや與へ申候

終に益々向寒の節諸兄には御自愛專一に遊ばされ度候(十二月六日塚田生)

佛都便り

高橋 博

(第二回蘇門會開催卒業生諸君に告ぐ)

○時は既に孟冬將に眼界素雲に遮られ枯木華を付くるの候と相成り候、思ふに我敬愛せる諸君が權威ある木曾綱を以て普く帝國の各地に羽翼を擴げ林業界の爲め各天分に奮闘せられ母校の名聲を博せらる快何ぞ如かん希くは一層の御自重あらんことを

○我蘇門會員中巖に異動あるや吾徒の之れに對する真情を本誌に掲載せられん事を乞ひたるに不幸にして希望に沿はず遺憾此のまなき次第に有之候爾後繁忙の季に入り全くペンと親まず校友諸君に對し申譯の無き事甚し特に同會幹事として會員諸君に對し謝するの辭を失ふ幸に御察被下度候

○茲に特に一言を呈して諸君の御贊成を乞はざるべからざる一事有之候、ソハ我蘇門會が以上の如く一大異動を來し願ひに寂

を感じ候而して時は既に吾人の會同を過ると同時にことし年始に於ける盛況に顧み轉た懷舊の情に耐へず茲に於て余は廣く諸君の贊同を得て曩に上山田温泉に開催すべくして自他共に時を得不得延期となれる稍廣き意味に於ける蘇門會の開催に有之候、本件は過般一度福嶋町に開催せられし諸種の關係より中絶せしが今年歳末年始の休日を利用して歸省せらるる多數諸君の出席に依り松田恩師安藤新校長の御臨席を請ひ市下に會同し再び十年前に立ち歸りて一日の清遊を試み吾々一生一度の氣晴らしを致し度く切に希望に耐へざる次第願くは縣内へ歸省せらるる諸君は勿論其他の諸君に於ても万障御差し繰り振つて御列席の程願上候

尙準備の都合有之候に付き御出席せらるる諸君は本月二十五日迄に縣廳内小生迄御一報被下度候

本件は松田恩師安藤校長の御内諾を得當大林區署及縣廳の諸君の賛成を得たる次第に有之候

而して期日は一月六日午後二時御參集の事場所は決定次第御申込の諸君へ御報可申上候、又會費は大約壹圓五十錢の見込に有之候

朝鮮より(第二信)

西野入 徳

秋風肌を吹いて男子壯心を奮ひ起さしむるの候諸兄益々御元氣の御事と邦家の爲め奉賀候愈校舎も新築せられ萬事整頓の下に致々御研學の程嘸かし御愉快の御事と遠察致し居り候テヌムコトも大部結構のもの、儲はし事と存じ候併、代田式の熱球はともしたら黒川の水泳を試みずやと鴨江の岸邊より御案じ申上候

當地昨今頃には寒氣相加はり候未だ積雪は見ずと雖も凍々たる寒風に遠慮もなく吹きまぐられ流石に厚き面の皮も誠に痛さを覺え候併し寒さ消極的に防寒の策ばかり講じ候も何となく意氣志なき様に思はれ候ま、積極的に其寒氣を追ひ拂ふべく本日は職員其他二百に餘る生靈相集つて廳庭に遊會を打開き候然る處流石の寒風も此舉に打驚きけん翼を萎め江を涉つて滿洲へと退却致し候意氣なる哉意氣なる哉男子須く強かるべし進む處に道生ず吾人須く其膽を太く保ち進んで困難にぶつかり大に努力し以て吾人、運命を開發するを要する事と存候

閑話休題、我母校も木曾の清畔に呱呱の聲を揚てより齡を重ねる事茲に十有餘年明治は最早古き昔と過ぎ去りて新らしく大正の時代と相成り茲に新らしき衣を装ひつゝ名も新開の地に新開したる事なれば諸君の前途や嗚かし新たに開發せらるる事と存候然らば如何なる新方面に向つて其進路を開發せらるるや伊土戦争の原因を知りバルカン問題の性質を解し世界大勢の由つて以て廻轉する原機軸の何たるかを常に注意せらる我校友諸兄には必ずや其進路を新らしき土地に向つて擇まるる事と存じ候、然り新らしき土地なる哉新らしき仕事なる哉に候諸君試み卒業生方向調を開いて一見し給へ兄が第一番に目出づるものは何々林區署在勤何々林野局勤務又何々縣廳勤務何々縣技手等にして殆んど其大部分否家事上の都合等により他出し能はざるもの外は殆んど其全部が官吏又は公吏にあらずんば之に類する食俸者のみ候我輩又御多分に洩れず候之諸君と共に須く一顧を要すべき事と存候之果して我校の本旨に合致するの現象なるか元より母校たるや林業の實務を養成

するを亦一つの目的とするが故に勿論前記の如き御役人様を製造するも必要の事に候へ共亦是と同時に自ら鎌斧を友となし額に汗して活動し自己の骨折の結果をば善にもあれ悪にもあれ之を自己一身に引受くる所謂自營獨立の百姓と云ふて語弊あらば實地家一の續々現出せん事は吾等諸君と共に大に希待すべき事と存候

而して是を實現するには内地敢て悪しくは無之候而し新らしき土地は更に結構の事と存候近くは此朝鮮あり滿州あり又南に向へば臺灣ありここに樟腦を作つて傍ら砂糖を栽培し豊なる天の恩恵に浴するも亦可ならざる候や我朝鮮のごときはかかる健實なる同胞の來りて其無限の天寶を開發するを待居候先便にも申上候通り本半島の南部には赤裸々の秃山誠に多く候へ共併北に進むに従ひ又鐵道沿線より離るるに従ひ其荒廢度は漸次減少し本道の如きは最悪の土地と雖も尚ほ木會の民山以上の立派な草生地には有之天然雜樹は盛に生長し地味敢て不良に有ざれば是に更に人工造林を補はば期年ならずして大森林の出來を見る事疑を容れ申さず候賢明なる我總督閣下は茲に見る處あり昨年森林令を發布相成り其第七條に規定して國有林と雖も之に造林する事を許し而かも其成林したる上は本人に之を譲與する事と致され候諸君如何に候や一攫千金を夢むる無頼漢は禁物に候へ共正直なる勞働と着實なる計劃の下に斷えざる忍耐力を有する我同胞は此寶庫を開かずや尙ほ又充分の忍耐可なり其資力あるに於ては是より一層短日月に其効果を納め得る方法あり是即ち傾斜十五度以下の緩斜なる國有未墾地にして未だ鮮人の手をつけざるもの諸所に存する事之又前同様開墾の上は本人に付與せらるる事

の候へば額の汗を一粒餘分に落せばうだけ自分の所有地が廣まるわけに候依て御參考迄に森林令及國有林未墾地利用法各一部宛御送付申上候間之に依りて余が言の虚ならざるに安せられ度候若し朝鮮や滿州さては臺灣等内の屋敷では肩がこるとならば一足南へふむればばらばらにはフヒッピンもボルネオもありマニラに煙草を栽培し田舎紳士は未だ味はつた事もない葉巻を御手のものと輸出する亦面白き事に候はずや若しすれば最早人の先鞭をつけし事に面白からず申す事ならば更に一番發して人も少なき南米の地に新事業を開始する敢て悪き事にも候まじ椰子の實豊なるココヤのプラトーに世界の自由を恣にする又快ならずや近くパナマ運河の開通せらるるに於ては此地必ず世界の物資供給所たるべく候或は又ブラシルの野アマゾン河の邊にバナナを味ひながら此地有名なるクキーソウツドの原始林を勝手に伐採して世界の市場に輸出し或は又日本の氣候に酷似したる彼のアルゼンチンに至りて日本式事業を起し又は無盡藏なる杉の天然林を伐り出し世界各國に輸出するもよし其他吾人の奮發次第實の山は至る處に存在致し居り候へは世界一等国及貧乏國たる我日本の新國民は御同様奮發致し度き事に候

煙虫馳走の福島は最早昔時の木會に非ず新開に新築され候我母校は曩日の山林學校にあらず其中に研學する諸兄は即ち醒めたる新らしき時代の青年なり時下諸君をして青く又亦くせしむる試験てう鬼神の接近せる折折角御自愛の程祈上候 敬具

(義州の寓舎にて月傾く頃撰筆)

拜啓、吹く風に鳴く小鳥に只々冬の寂寥を感ずる折柄吾校友諸兄は益々努力奮勵の由何よりと賀上候小生儀昨年一年志願兵として豊橋工兵第十五聯隊に一ヶ年の星霜を経て十一月三十日滿期除隊と相成歸郷致候間乍他事御安心被下度幸に終末試験にも及第致し候間左様御承知被下度候先は不取敢御通知迄早々(十二月三日付)

加藤君
輕快な足取りを以て登壇した君は頓智の親玉一休和尚の話一休が紫野大徳寺の小僧だった時他所から餅を貰つた一休はそれを半分隠したそこへ他出して歸つて来た和尚は餅が半分なのを見て「十五夜に半割月はなきものを……」とやつた一休すかさず「雲に隠れて此に半分……」と隠した餅を出したので反て御目玉ではなく殘の餅を頂戴したといふ……た伽的話

石坂君
拍手に迎へられて登壇した君の演説主旨は反省と云ふ事小蟹の歩き方を笑つた親蟹は矢張自分も横這ひをしたと云ふ蟹の話を引き水の上君

私は初めて「悪魔處へ出た者だか甘い事は言ひませんが……」と頗る遠慮されたが遠くに慮あつて「近きに思はなく……」とどうしてどうしてなか……隅に置けぬ「思ひ立つたが吉日」と云ふ題にて日本の我商家の家則

雜報
十一月三日校友會例會に於ける演説スケツケ (順序不同)

やら西哲やらの言を引いて述べられた

唐澤君
「明科製材所視察」の演題製材所の建物業械製材量及路等を精細に述べられた感う云ふ話に免もするごあきたがもの聴者に感興を興へつゝ「スラ」とやつて退けるのは君が一種獨特の手腕である

中垣君
悠々追らず富と云ふ事に付て富の定義を述べ種類を説き昔大坂で洪水の時握飯を大枚千兩で買つたと云ふ話を引いて金銀を以て第一の富と云ふ事は出來ない事があると結論された

島内先生
博手瀉裡に壇に立たれた先生破顔一笑諸君の前の御菓子も大分少くなり有益な話にも飽いたやうだから簡單に述べて置きますと前置せられ日頃蓄積せられた所感を述べられ明治聖天子の追念、新校舎と舊校舎を例に引いて古い所には光があつても新しい所へ變るとえて光が失はれ易いものだから今新校舎へ移つても古い校舎にあつたやうに大に訓戒され「現代青年は不可及の望を抱いて後日の觀樂を夢みんとする一種の空想狂」であるとの事から現今社會の有様を説きて吾人の猛省を促された

校長先生
口一番先づ人には夫々趣味娛樂を有す事お説き起し先生の竹に對する趣味性癖に及び更に先帝陛下が日頃竹を愛好せられたる證として明治十四年救題竹有佳色の御製植ゑたさし庭の吳竹世々をへてかはらぬ色のたのもまき哉

全十九年救題綠竹年久の御製
九重のうてな竹のふかみどりかはらぬ

藤ぞひさしける
全三十四年救題雪中竹の御製
この上に幾重ふりそふ雪ならん竹むら高くなりまさりつゝ

を示されて訓戒せられた要は竹の正直にして風雪に撓まぬ所に倣へ趣味を味ふ中にも修養を怠るなといふにありて吾人の印象は頗る深かつた

芳川君
才子と云ふ演題に付き先づ菊の寒さに堪へ得る事を見て吾々青年の奮起すべきを述べ次に本題才子と云ふ事に付き其の天才智小才智との區別を述べ人間が世に立つて行くには此の二つの才智を以て敏活に世の出來事を處理して行かなければならぬが然し輕薄に流れて目前の事にのみ離脱して所謂薄輕才子にならぬ様に希望され次に又美人は美を持つて身を誤ると云ふ如く吾々青年も其才智をたのみならずからざる旨を述べ其れに付き竹の如くよく氣節を持つて才智と兩々相俟ちて大に發展を望む旨を述べ壇を下りぬ

澤柳君
演壇に立ちて先づ今日先帝陛下の御生誕日なるに依り吾々臣民はよく先帝陛下の御遺徳を服膺して永久に此の日を記念すべきを述べ其れより本題に入り大に日本紳士の自前の虚榮虚飾にのみ熱中して居る事而も世界の一等國と自分も許し各國も認めて居るに比較して其の紳士なるものの行動が耻づべきで有る事を攻撃して現代の青年の處すべき道は今「シミツタレ」と云はれようが「ケチンボ」と云はれようが國富と云ふ事を願ふべき事を述べ其れには税が高いの不自由だのと云ふ事を忘れて西洋人を相手にし

て仕事もし外國人を相手た商業もして大いに各自に節儉を旨としてして二十億の借金を吾々の手に依つて早く支拂ふ事をつとむべき旨を述べられた

神作君
此の氣候の寒さに對して内部の防寒法と外部の防寒法との二つが有り其の内部の防寒法として最良のものは焼芋で價が安く防寒としての効力のなかくに大なる事を辨せ夫から薩摩芋の沿革を述べられ昔は其の効果を擧げられ大に燒芋主義を振りまはされた

細江君
先きに本會に於て述べられし木曾山の事業の續きを伐木から轉材運材小谷符の状況大川符中の難所の話し復の組合から熱田の貯木場迄の有様を纏々述べられた

佐藤君
演題は武田信玄、君や生れは甲州其の配令誠にもしるも第一に信玄の生立から其の長するに及びて父を追ひ近國を平けて天正元年草葉の露と消れたる事を細かに話され次に信玄の「刀を抜かぬ」といふ警言に對し一生生涯よく其言行を一致せしめたるにもがはらず頼山陽の如き武道の心得なき小才子が信玄は川中嶋の戦に刀を抜く暇なきなど評せしは以つての外なりと大いに頼山陽の誤を責め信玄の生死存亡を輕んじて主義を重んじた事を賞揚して吾々青年の範とすべきを述べられた

久保田君
君は暑中休暇中に視察せし民間の殖林事業に付き大要左の如く述べられた

場所は下伊那郡遠山地方で地味はなかく良好飯田附近に見るべからざる事其れから

此地方の勞力は多く三州尾州方面より得一日三十錢内外との事木材運搬は川下し材需要地は支那朝鮮等、苗木は多く育家製にて尾張邊から少々買入れる事も有り人夫は通常一日百四五十本殖栽する事其れから下刈は全刈と坪刈にて坪刈は枝の下のみ蒔る法にて全蒔は全部蒔る法なり道具は柄の長さ七尺位の鎌を用ふ

特におもしろく感じたるは苗圃の肥料に糞糞を用ひ造林地地拵は太古如く甲地にて焼畑になして作物がよく實らざる時は地に行き漸次造林するとの事なり最後に遠山に付き君の意見を述べて壇を下る

坂田君

今日は追憶多き日なるに加へて校友諸兄の種々有益なる演説特に校長先生、島内先生の修養上に關する講話を聴くを得て非常にうれしく感じたる旨を述べ壇を下られた

(齋藤、塚田筆記要領)

林界雜俎

●森林保護狀況 本年四月縣告示第一號を以て森林保護に關する方針を定めて一般に戒告する所ありしが其後の狀況に就て聞く所に依れば縣下三百九十二ヶ町村中之に該當する町村数は二百二十六ヶ町村約五十八%に當るの多數にして概して郡林業技手設置の郡は比較的成績良好なる由然れども今後尙益々周到なる指導を要するものあり既に十數年間諸種の災害に抗し得たる成績をして十分發揮するを得しむると否との別るゝ所なれば一層周到なる注意を以て指導せざる可らず失には郡技師員の設置なき郡は可成其任用を必要とするのみならず其設置しある郡にありても縣より出來得る限り指

會費領收報告

前野慶一君
江畑前校長へ紀念品
贈呈寄附領收
貳圓梨原貞治君、角田久福君、壹圓五拾錢
甲田君、壹圓宛岡西謙三君、石曾根四郎君、田中吟重君、原喜四三君、五拾錢宛市岡淳一郎君、倉澤建雄君、高野薰見君、小計拾壹圓
累計壹百〇五圓五拾錢

卒業生名簿

- 第一回
東京府農商課林業技手 遠藤 宗作
長野縣上田小林區署林務技手 齊藤 正雄
朝鮮總督府技手 岡戸 廣治
長野縣林業技手 高橋 作次
新瀨縣六日町小林區署技手 小瀧升太郎
長野縣上田小林區署技手 中村 豊治
富山縣技手 原田 義治
長野縣上田小林區署技手 坪倉藤三郎
西筑摩郡田立村 林 哲次
鳥取縣日野郡技手 森 正次
長野縣上田小林區署森林主事 祐川 昌平
青森縣下北郡大港村 沖繩縣技手 廣嶋縣技手 廣嶋縣技手 廣嶋縣技手
西筑摩郡三岳村 西筑摩郡木祖村 西筑摩郡木祖村
木曾支應技手奈良井出張所在勤 岡田 恒治
石川縣石川郡技手 大森 久治
岐阜縣技手 福田友次郎
西筑摩郡蘭小學校教員 伊東 兵太
鹿兒島縣肝屬郡内の 福井 利吉
浦小島區署技手 古根 是
下高井郡技手 兒野 榮
西筑摩郡日義村 征矢野克己
鐵道院總裁秘書課 輪湖 正五
東筑摩郡片丘村 小松 精内
西筑摩郡讀書村 原 庄次郎
福島町 原 庄次郎
- 第二回
群馬縣利根郡足尾鐵業所員 川岸滋次郎
長野縣上田小林區署技手 坂本 忠治

- 東京醫科大學
北米合衆國 Clippesley House
シヤトル 6197 thavaso
木曾支應技手王瀧出張所在勤
三重縣技手
鳥取縣勸業課技手
新潟縣勸業課技手
愛媛縣新居町住友別
子鑛業所山林課
三重縣技手
名古屋支應技手津出長所在勤
高知縣西條小林區署森林主事
朝鮮營林廠技手威鏡道
三水郡新加場鎮在勤
嶋根縣技手
西筑摩郡三岳村
東筑摩郡片丘村
全
小縣郡技手
岐阜縣惠那郡坂本村
南安曇郡島川村
愛媛縣新居町住友
別子鑛業所山林課
西筑摩郡神坂村
福島縣技手
東京府南日ヶ窪十二
千葉縣由基北小町
奥山官行材木所
秋田大林區署雇
山梨縣技手
石川縣技手
朝鮮厚昌郡五佳山
營林廠事務所
名古屋支應技手
第三回
木曾支應技手飯田出張所詰
北米合衆國シヤトル 6197 thavaso
木曾支應技手三留野出張所詰
中 龜吉
平澤 政吉
仁科 春
武久 貞一
遠藤治一郎
宇佐美周紫
木下 清
木村鐵次郎
篠原 忠治
南村 末吉
林 與五郎
鶴岡 政義
正又實次郎
大熊 俊彦
中嶋源一郎
杉本 貢
岩久 宗治
黒岩 正平
乙谷 耕吉
大脇 又衛
倉澤 真
原 傳
下條初太郎
加藤 純一
林 卓二
温井 誠一
柳澤 邦信
松井 定道
嶽野 利雄
清澤巳未衛
岡田彌兵衛
熊本縣球磨郡阿久曾官行材木所 山下 常記
岩手縣縣仙郡技手 柳澤 熊治
小縣郡長瀨村 鶴岡 正雄
齒科醫福島町 宮下 信一
熊本大林區署技手 山下 藤一
木曾支應技手藤原出張所詰 野里里慶助
西筑摩郡那妻村 代田善次郎
青森縣川内小林區署技手 小林桂一郎
福島町 上 杉本 純平
全 三宅 周吉
石川縣河北郡技手 寺尾 敬二
石川縣河北郡技手 但島 廣造
北海道廳拓殖部林務技手 宮崎清太郎
朝鮮全羅北道群山市 下畑 徳十
北面嶺項里金融組合 小藤作四郎
青森大林區署技手 古畑 金藏
西筑摩郡檜川村 前野 慶一
東京府室林野管理局技手 千村 重喜
木曾支應技手三留野出張所詰 池井 深一
西筑摩郡日義小學校教員 寺村 正治
石川縣珠洲郡技手 宮森太一郎
山梨縣善島恩賜財團管理課 宮田 實
青森縣善島市小林區署森林主事 戸田 績
石川縣羽咋郡河合谷村 木下安太郎
第四回
朝鮮平安北道廳技手 西野 入徳
木曾支應技手野尻出張所詰 川崎 本雄
木曾支應技手野尻出張所詰 宮崎 二朗
更級郡八幡村 永田精一郎
岩手縣野尻出張所詰 廣瀬静之進
長野縣日田小林區署森林主事 澤田貞次郎
山梨縣技手 矢嶋 駒二
北安曇郡常磐村 太田喜代松
新瀨縣中頸郡關山小林區署 和尾 宗吉
木曾支應技手野尻出張所 大島 忠助
西筑摩郡大桑村 角藏
青森大林區署技手 赤岩藤太郎
東筑摩郡湯舟出張所 肥後金四郎
西筑摩郡福島町 市川 潔
西筑摩郡福島町 水野 忠一
永井 順
三原 昇
竹内房太郎
新井喜多雄
村上喜次郎
木村晋次郎
松島 九平
中嶋 昌利
肥田幸一郎
武居 文作
小林 恭市
宮城 忠藏
瀨在 五寶
仲俣 萬吉
松澤 萬吉
北澤時三郎
金井 澄水
小池 新伍
水橋 要作
宮崎惠喜太
樋口 勇
小山田喜重郎
北川 信美
藤巻 壽一
高野 金作
横山 治人
寺嶋 俊一
原吉右衛門
林 省三
竹内 善三
千村 善三

友林蘇岐

Table with multiple columns listing names and titles such as 山梨縣技手, 木曾支廳飯田出張所, 協田 義正, 久保田傳一郎, 池田藤三郎, etc. organized into numbered sections (第六回, 第七回, 第八回, 第九回).

明治四十四年六月十四日第三種郵便物認可